

横浜市小学校社会科研究会

4 学年A部会

## 研修会記録

第 2 号

令和2年 9月 29日

横浜市小学校教育研究会

会長 相 澤 昭 宏

横浜市小学校社会科研究会

会長 梅 田 比 奈 子

同 学年部長 廣 瀬 貴 樹

【提案日時】

9月 9日 (水)

提案 宮本 尚樹 先生 (滝頭小)

権正 倫範 先生 (美しが丘小)

【会 場】

横浜市立平沼小学校

司会 金井 伸一 先生 (西富岡小)

記録 高橋 惇平 先生 (北方小)

○滝頭小 宮本尚樹先生 「滝頭3R夢大作戦」

【自評】

- 本気の学習問題をどうつくっていくかを考え、複数想定して単元をつくった。
- 単元の初めは、「出しているごみの量が少ない」と捉えている児童が複数いたため、「多い」と思えるように、1週間のごみと同じ体積の空気が入ったごみ袋を提示した。
- 本時の資料は「処分場のごみを入れることができる量」の棒グラフを出した。

【討議】

- 市が3R夢を続ける理由を考えるよりも、処分場に目を向けて、本時の問いをつくっていくと、本時の資料である棒グラフがもっと効果的に活用できたのではないか。
- ごみに対する現状を知っていく中で自分たちにできることは何か、子どもの中で切実に感じられる工夫が難しい。ふり返りを共有しながら、どのように問いをつくっていくとよいか考えていきたい。

○美しが丘小 権正倫範先生 「自分たちの出すごみの行方を追いかけて」

【自評】

〈視点①：単元づくり〉

- まずは学習指導要領を理解し、単元構成を考えていった。身近なゴミ調べから始め、単元を見通した問いを成立させるようにした。また、疑問や予想から学習計画を立てるようにした。
- 調べていく過程では体験・見学が必須で、ふり返りを入れながら進めていった。その中で社会的事象の意味に迫る本気の問いをつくっていくようにした。

〈視点②：授業づくり〉

- ・事実を丁寧に調べていくようにした。その中で、「あと33年しか処分場が使えない」という新たな事実と出会わせた。
- ・単元終了時には、子どもの変容が見られた。道端のごみを集めて捨てるなど言動が少しずつ変わっていったため、子どもの見とりを授業に生かしていくことを今後も大切にしていきたい。

【討議】

- ・子どもの納得を大切に、学習を進めていると感じた。
- ・教師が調べずにはいられない事実を見つけると、子どもの本気の学びにつながるのかもしれない。
- ・事実の積み重ねによって、見える・見えてくるものが違うからこそ、単元をどう構成していくかが大切であると提案を聞いて再認識した。

○先輩の先生から

洋光台第二小学校 副校長 渡邊 智志 先生

- ・それぞれの授業記録を読んでいくと、子どもの発言に対する注目したい「問い返し」が見られた。
- ・宮本先生の授業では、最終処分場があと33年しか使えないという資料を出した時、子どもが「終わった」と言って危機感を抱いた場面で問い返すと、それに対する具体的な話合いができた。
- ・権正先生の授業では、子どもが「（ごみを減らすために）何かしないといけない」と発言した場面で、教師が「誰が何するのかな？」と問い返し、子どもの発言に対してさらに「市民って？」「あなたたちは？」と問い返した箇所に、子どもたちの意識を高めようとする教師の意図が表れていた。

下野庭小学校 校長 黒木 英晴 先生

- ・2つの提案を通して、「単元を見通す学習問題」や「本気の学習問題」など、学習問題がいかに大事かを考えることができた。
- ・未来を創る子どもたちを育てていくためにも、社会科の資料や体験などを通して、子どもたちの中の「今よりもよりよくしていこう」という気持ちを大切に。このような時代だからこそ、事実と向き合い、新しく創造する力を育てるような授業を考えていきたい。

文責 小沢 暢志 (獅子ヶ谷小学校)